



断腸の思いで削る決断を！

町長 常に念頭に置いている

奈須 憲一郎 議員

政策の優先順位は

質問 次の点について町長の見解を。

- ① 高齢者は等しく支援の対象なのか。そもそも高齢者福祉とは何か。高齢者とは誰か。
- ② 敬老会及び金婚式によって解決しようとしている社会的課題は何か。
- ③ 病児保育は一向に施策化されず、その上、待機児童が生じている。子育て支援は後退しているのではないか。
- ④ 一方で敬老会及び金婚式は継続している。敬老会及び金婚式は、病児保育や待機児童解消より福祉政策としての優先順位が高いのか。
- ⑤ 人口が減少しているのに縮小や廃止の施策より継続や拡充、新規の施策が多いのはなぜか。持続可能なのか。

町長 ①法に則って制度要件に該当する方は等しくサービスを受けられる。

②敬老会は、本町の発展に尽くされ、長寿を保たれた方々を心から敬意感謝するとともに、老人に対し自らの生活向上に意欲を促すことが目的。

金婚式は、結婚50年を迎えるご夫婦が郷土発展にご尽力されたことに對し、町ぐるみで感謝することが目的。

こうした行事を通じ高齢者の地域社会への参画機会をつくり、町民へ敬老思想と高齢者福祉の意識高揚にもつなげている。

③現在の保育士数では更に児童を受け入れることが困難な状況にあり、保育士の募集を進めている。待機児童の早期解消に向け早急な確保に努めるとともに、病児・病後児保育についても引き続き検討を進める。

④敬老会や金婚式は、今後広く町民の皆さんの御意見を伺いながら検証を進める。

⑤各施策の持続性については、必要性はありつつもその効果やニーズが時代とともに変遷するものや多額の一般財源が必要なものなどについては、各審議会での議論や関係団体、対象者など、広く町民の皆さんの御意見を伺いながら検証を進める。

再質問

小さい地域社会の顔が見える信頼関係の中で、ざっくばらんに話し合えるというのが下川の良さだと思っっている。ただ、それができない現状がある。抱えている事業が多くそういった時間がない。優先順位をしっかりと、職員を身軽にして、

本場に重要で、だけどなかなか解決策がみつからない、そういうところに注力して事業を立ち上げていただきたい。

政治家は人気商売だが、同時に嫌われ役でもある。そういった中で削るものは断腸の思いで削るという決断を。

町長

上がってくる施策・提案を、本当にそれが必要なかどうか、そしてまた現状の事業が継続していくことが本当に地域のためになるのか、常に念頭に置いている。

それが政策形成をしていくときの考えようとする力になる。それは問題意識と危機意識、そして情報収集になってくるのではないかと思っっている。